



聖鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢 2-10-11
TEL 3421-3646 FAX 3414-9023
URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

自ら破る言葉

司祭ヨナタン 長谷川正昭

「神の言葉は繋がれたるにあらず」という著作を残したマルティン・ニーメラーというドイツの牧師がいました。ナチに対する抵抗を試み、収容所に入れられましたが、生還し、戦後は平和運動に邁進しました。彼の残した詩は強いメッセージ性を持ち、世界中の多くの場所で引用されてきました。次のような詩です。

「ナチ党が共産主義者を攻撃した時、私は多少不安だったが共産主義者でなかったから何もなかった。ついで学校が、新聞が、ユダヤ人が攻撃された。わたしはずっと不安だったが、まだ何もしなかった。

ナチ党はついに教会を攻撃した。私は牧師だったから行動した。しかし、それは遅すぎた。私のために声をあげる者は、誰一人残っていないかった。

実際にはドイツの教会闘争は

熾烈に闘われ、多くの抵抗を生み出しました。ニーメラーの強い確信は冒頭にも紹介したように神の言葉は繋がれていないということ。ニーメラーの詩は教会に対する警告です。ナチス・ドイツのような大がかりな独裁政権は現在ありませんが、世界中のあらゆるところに民主主義、主権在民をおびやかす勢力が残存しています。おそらく人間の歴史が続くかぎり、それが姿を消すことはないでしょう。



しかし、私たちは教会人として、そのような動きに抵抗しなければなりません。なぜなら、それは私たちの中にもある罪が現象的に現れたものだからです。

ニーメラーはルター派の牧師でしたが、「聖書のみ」「信仰のみ」という宗教改革の原理は現代において、もはや機能不全に陥っているというのが私の基本的な認識です。

もっと別の言い方で言えば現代人が求めているのは、救済の言語ではなく、言説を超えたりアリティの実体験です。

言葉の権威が失われたのが現代という時代ですが、それを回復するためには「身体への信仰」ということを考える必要があるというのも私の確信です。

神の言葉が私たちに臨むときどのような引つ込み思案の人でも、それを語らずにはいられなくなりません。そのような言葉を取り戻し、それを語る器として用いられていくことこそが私たちに求められていることです。「全否定即全肯定」ですから私たちは自然的存在として安穩としていないのではなく、意識的、自覚的に神の言葉を追い求めていかなければならないのです。たとえば、古い自己と決別してでもそうする必要があるので。神の言葉は繋がれていないのですから、束縛の鎖は破られるのです。

牧師動静

7月

- 15日(水) 芝公園再開発委員会
- 19日(日) 聖歌隊合宿(ナザレ修女会)
- 21日(火) 会計監査、久慈優理姉見舞い<教会トイレ改修工事開始>
- 23日(木) 立正佼成会用賀教会創立50周年記念式(プラザホテル)
- 24日(金) 山手グループ教役者会
- 25日(土) 故久野和彦兄埋葬式(春秋苑)
- 26日(日) オイレンシュピーゲル合唱団(聖堂)
- 25日(木) 立正佼成会世田谷用賀教会創立50周年祝賀会(プラザホテル)
- 29日(水) 井早康正兄見舞い(順天堂大病院)
- 30日(木) 鶴牧集会

8月

- 1日(土) 礼拝勉強会
- 8日(土) 事務スタッフ会
- 11日(火) 児玉久雄兄逝去の祈り、オーガニスト一日研修会
- 12日(水) 児玉久雄兄納棺式
- 14日(金) 通夜式
- 15日(土) 葬送式
- 16日(日) 森田兄、風間姉結婚講座
- 18日(火) 庭プロジェクト
- 22日(土) 総務会
- 25日(火) 芝公園再開発教区側小委員会
- 26日(水) 児玉初枝姉見舞い(吉祥寺野村病院)
- 29日(土) 世田谷宗教学者懇話会準備会

9月

- 1日(火) 児玉初枝姉塗油式
- 3日(木) 総務会
- 5日(土) 「世界平和を祈る集い」(世田谷宗教学者懇話会主催、北澤八幡)
- 6日(日) 言いつ放し懇談会、森田兄風間姉リハーサル
- 8日(火) バス旅行
- 11日(金) 聖書を読む夕

- 12日(土) 森田兄、風間姉聖婚式
- 13日(日) 敬老の日の集い
- 16日(水) 小松和子姉、逝去の祈り(慶応病院)、納棺式
- 17日(木) 小松和子姉通夜式
- 18日(金) 小松和子姉葬送式
- 19日(土) 故児玉久雄兄埋葬式(上川霊園)
- 20日(日) 根津雅兄、久慈優理姉、誕生感謝式(彩月)
- 23日(水) 宣教150周年記念礼拝(カトリック聖マリアカテドラル)
- 24日(木) 滝野川学園見学
- 25日(金) 山手グループ教役者会
- 26日(土) 逝去者記念式
- 27日(日) 千住キリスト教会委員会
- 28日(月) 児玉初枝姉逝去の祈り
- 30日(水) 横浜教区聖アンデレ教会婦人会来訪、児玉姉納棺式

10月

- 1日(木) 児玉初枝姉通夜式
- 2日(金) 児玉初枝姉葬送式
- 3日(土) 教区礼拝音楽委員会研修会「礼拝におけるみ言葉」
- 4日(日) オルター研修会

信徒動静

- 誕生
根津雅兄、ペロニカ久慈優理姉、7月18日御長女誕生(彩月と命名)
- 逝去
ジェームス児玉久雄兄、8月11日逝去、享年86歳
マーガレット小松和子姉、9月16日逝去、享年88歳
グレース児玉初枝姉、9月28日逝去、享年78歳
- 送籍
パウロ今田仁兄、モニカ今田滋子姉、9月13日、調布カトリック教会
コリン馬淵みずす姉(旧姓鈴木)10月9日、阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

礼拝集会案内

主日礼拝	日曜日	聖餐式	午前八時三十分
夕の礼拝	午後四時		
週日の礼拝	木曜日	聖餐式	午前十時三十分
教会暦の定める祝日	聖餐式	午前十時三十分	
ぶどうの木(子どもの礼拝)	日曜日		午前九時三十分
集会	壮年会	毎月第一日曜日	
BSA例会	適宜		
中HIGH倶楽部	適宜		
聖書を読む会	火曜日		午前十時三十分
聖書を読む夕べ	第一金曜日		午後七時
代沢(こ)も文庫	第二水曜日		午後時



宣教150周年雑感

司祭 長谷川正昭

記念礼拝について

「日本聖公会にもまだこんな底力が残っていたのか、と驚いた」と元ソウル教区主教の金成洙主教が記念礼拝の翌日、言われた言葉が印象的でした。

記念礼拝の翌日、金主教と夫人(昔、東京教区で働いていた英国の婦人宣教師、カウドレイ姉)を案内して滝野川学園に行つた際に言われた言葉です。たしかに23日のカトリック聖マリアカテドラルの参加者の人出は凄まじいものがありました。陪餐者2500名、礼拝出席者2800名と発表されました。東京教区、近隣教区はもとより、日本全国から善男善女が押し寄せました。

礼拝も整然として立派でした。植松誠首座主教の落ち着いた堂々とした司式も、カントベリー大主教ローワン・ウイリアムス師の説教も間然するところがない見事なものであったと思います。興石勇司祭(北関東教区、NCC議長)の通訳も歯切れよくわかりやすいものでした。

カンタベリー大主教のメッセージは西洋対東洋、或いは文化による福音の受けとめ方の違いに配慮した深い内容でした。陪餐の前、カンタベリー大主教は子どもたちの頭を手を按いで丁寧な祝福してくださいました。子どもたちは会衆席前方の左側に陣取り、聖職者団が退堂するとき、増補版聖歌6番を合唱してくれましたが、これがとても好評でした。(この聖歌は不思議な聖歌で作曲者も作詞者も不明ですが、宣教150周年のテーマ「漕ぎ出せ、沖へ」にぴったりです。)

また、前日行われた立教大学での記念行事と夕の礼拝も大変盛況であったと聞きましました。(小職は残念ながら不参加)アメリカ聖公会のジョーリ・総裁主教のメッセージはすこし過激なもので、女性主教として活躍され、世界の聖公会の難しい情勢を反映したものと思われました。

準備について
日本聖公会では宣教100周年の際に代々木の東京体育館で記念礼拝を捧げています。八代斌助という伝説的な人物が首座主教の時です。このときは日本聖公会の難しい情勢を反映したものと思われました。

また、前日行われた立教大学での記念行事と夕の礼拝も大変盛況であったと聞きましました。(小職は残念ながら不参加)アメリカ聖公会のジョーリ・総裁主教のメッセージはすこし過激なもので、女性主教として活躍され、世界の聖公会の難しい情勢を反映したものと思われました。

漕ぎ出せ、沖へ

宣教150周年の標語である「漕ぎ出せ、沖へ」をあらためて最後に考えてみたいと思います。これについて考えるときに、思い出されるのは亡くなった澤邦介司祭が1998年2月15日発行の教区時報の巻頭言に書かれた「浅瀬でピチャピチャ」という一文です。

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」(ルカ5,4)とイエスはシモンに命じられました。それなのにあなたたちは獲ってきた魚を生簀で囲って、なんとかそれを逃さないように飼っているだけだ。或る外国人が日本聖公会の宣教姿勢を皮肉ったということです。沖に漕ぎ出す勇氣を失つて、浅瀬でピチャピチャやうているうちに、幾つも開いた穴から魚はどんどん逃げていく。

このような指摘をされた後で、澤邦介司祭は大変辛らつたことを言っています。「飲み食い、楽しい人の輪はたしかに『仲良しグループ』をつくる。しかし、教会の交わりがない仲良しグループの域をでない、やがてそれは『茨』に変質する。沖に漕ぎ出すことを忘

もまだまだ勢いがあつて、準備のため、広報委員会、渉外委員会、礼拝委員会など、幾つもの委員会が立てられ、周到な準備がなされ、おそらく5000人近い人数が集まったものと思われれます。

今回の宣教150周年では実行委員会が一手に引き受けていました。実行委員長の植田仁太郎主教も御苦労が多かつたと思われれますが、いささか広報活動が充分ではなかつたように思われます。目白駅からカテドラルまで往復バスが用意されるというところはわかりましたが、その時刻表も乗り場の案内も不十分であつたということです。地元の目白聖公会では信徒を動員して目白駅にプラカードを持った信徒がはりついたと聞きましました。

目白聖公会では当日の夕方、記念礼拝の参加者、とくに地方からの参加者のために礼拝後、教会に御案内し、夕の礼拝を共にしたあと、お茶会を催し、ケーキと紅茶で地方からの参加者をもてなし、100人以上の信徒が立ち寄つたということでした。気の利いた企画だな、と感心させられました。

これで、浅瀬で満足していることと自体が茨の発生である」というのです。まさにそのとおりというか、宣教100年から150年の、この50年のあいだに日本聖公会に茨が発生しなかつたかどうか、わたしたちはよく教会の身の回りを点検しなければならぬと思います。深みに触れる恐れこそ、克服されなければならぬのです。教会の宣教姿勢を整えるのは教役者の責任です。その責任を痛感するものです。

宣教100年の記念礼拝の参加者はたしかに今回の記念礼拝をはるかに上回る人数が集まったかも知れませんが、しかし、天地の創造主である神の祝福は変わることもなく、50年後も100年後も豊かに私たちを恵み、潤すこととでしょう。私たちが乏しくされることはないと思つて、沖へ、そして深みへと漕ぎ出していくべきなのです。

これからの聖公会

23日の記念礼拝にはアメリカ聖公会シヨウリ総裁主教はじめ多くの女性司祭が祭壇に上がりました。そのことで、聖マリアカテドラルの信徒やほかのカトリック信徒から疑問の声が寄せられたと聞いています。しかし、カトリックも早晩、女性司祭を認めなければおさまらなくなることは目に見えているので、これは気にする必要がないと思えます。

世界の聖公会の世論を分裂させている同性愛の問題はどのように受け止めたらよいか、大変頭を悩ますところだと思います。性的少数者を無視してよいということにはなりませんから、受け入れなければならぬと思ひますが、同性愛の主教や司祭を受け入れることは同労の教役者や信徒にとつては痛みを伴う問題です。しかし、「最も小さい者」を受け入れることは私を受け入れることであるとイエスも教えておられるので、少数者を手厚く遇することが福音的なことにつながる道であると思ひます。幸い、今回の記念礼拝ではこのような問題が

『日本聖公会の試練』を配布

＝アンデレ同胞会＝

67年前、日本聖公会の組織が国家権力の弾圧によって約3年間、法的に消滅した。全国の教会は「単立教会」となり、主教按手(堅信)は違法行為となるという信じ難い出来事があった。世に言う「教会合同事件」である。日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)東京聖三教会支部は、この歴史的事実を風化させないため、そして折しも聖公会宣教150周年記念ということもあって、『日本聖公会の試練』へ松田義夫氏執筆および教会合同の是非を巡って動揺、苦悩する各主教の動きを綴った八代斌助・神戸教区主教の手記、そして『戦時中におけるキリスト教受難史』(岡村邦輔氏執筆)を掲載した小冊子300部を作製、当教会員および他教会BSA会員に配布した。

その後、三教会支部スタッフのPR効果もあって、九州支部から100部はじめ全国的な注文が相次ぎ、これまで合計800部まで増刷した。



表面化することはありませんでした。京都教区の不祥事についてのアツピールのチラシが配布されたことは遺憾です。しかし、これも管区審判廷、および教区審判廷が現在進行中です。これも少数者の人権が無視されている事例ですが、私たちはマタイ25章に出てくる「最も小さい者」の譬え話をあらためて熟読し、信仰的に受けとめなければならぬと思ひます。

1988年のランベス会議の主要な決議の一つであった全体奉仕職(トータル・ミニストリー)の問題はその後の2回のランベス会議ではすっかり同性愛問題に焦点が移されてしまったので、影がうすくなりましたが、これからの聖公会、これからのキリスト教を考へるときに真剣に取り組まなければならぬ課題だと思ひます。宗教改革の理念の一つであった「万人祭司制」、またカトリックの表現では「信徒の使徒職」という言い方になります。宣教に果たす信徒の役割の重要性がこれからはますます増大していくものと思われれます。トータル・ミニストリーということがこれからの聖公会をみちびく鍵だと思ひます。

親子3人よろしく

根津 雅(ただし)さん
久慈 優理(まさり)さん
彩月(さつき)ちゃん

生まれたばかりの幼子を抱く父親と、それを気遣いながらパンとぶどう酒を授かる母親、そしてそれに優しい眼差しを向ける信徒たち。ある日の聖餐式風景だ。聖堂に平和で幸福感に満ち溢れる雰囲気漂う。



この7月、待望の彩月ちゃんを授かった。子供連れで礼拝に臨むことが願望だっただけに「いま私たち3人で礼拝に出られるのは本当に奇跡のような思いなんです」と幸福感を体全体で表す優理さん。
優理さんが神との出会いを感じたのは大学時代のこと。カト

リックのシスターを通して「神さまを身近に感じ始めた」という。全く未知の世界のニュージールランドやオーストラリアの外国生活を始めた時も「教会に行けば道が開ける」と信じて躊躇なくその門を叩いた。

以前、阿佐谷聖ペテロ教会に籍を置いたが、彩月ちゃん誕生を機に永福町の自宅に近い聖三教会に転籍、私たちの仲間入りをしたという次第。

毎度、抱っこひも(スリング)の中ですやすやと眠る彩月ちゃんをいささかきこちなく抱いて礼拝に臨む根津雅さん、その彩月ちゃんの可愛い顔をのぞき込む信徒の皆さん。

「彼は教会に強い関心を抱いています。多忙なサラリーマンですが、可能な限り教会行事への奉仕活動に参加する意欲を持っているようです」と良きパートナーの胸の内を代弁する優理さん。

「聖三教会は非常に落ち着いた雰囲気のある教会という印象です。外階段の上から見る景色は清々しい気分にはさせてくれます。教会の中では私たちは、若手、のように見受けませんが、行事などの仕事で少しでもお役にたてればと思っています。どうぞよろしくお願いします」

(編集子)

小さなバスの旅

教会恒例の「小さなバスの旅」は、まずまずの天候に恵まれた9月8日(水)埼玉都宮市を訪問した。この日、長谷川牧師夫妻ら43人が参加。最初に訪問したのは北関東教会の「聖ヨハネ教会」。教会正面のゴシック様式の塔が一行を迎えてくれた。昭和7年(1932)の建築で、建物の外壁全体が地元特産の大谷石造り。有形文化財に指定されている。一行は長谷川牧師司式でし



ばし礼拝の時間を共にした。

次いでカトリックの「松が峰教会」を訪問。同教会も大谷石を使ったロマネスク様式を基調にした重厚な雰囲気漂わせた建築、国の有形文化財。訪問した

リレートーク

「150年」の実りと絆

森田麻里子

たお坊さんが倍餐の列に一緒に並び倍餐を受けたのです。司祭さんも一瞬困惑した表情をしましたがすぐに「ゴッリ」として倍餐を止めようかと迷っていたので、ほごした次第です。何はともあれ記念すべき日のアッシャーを無事終了しました。感謝。

9月12日に聖婚式を挙げ、清里で新婚の旅を過ごした長男夫婦を連れて、22日朝武川から出発しました。立教大に到着すると、150周年記念行事プログラムは華やかに始まっています。

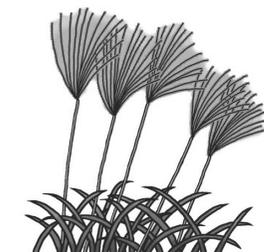
夫は東京教区人権委員会出店の手伝いです。宋富子さんの「愛するとき奇跡は創られる」を販売しました。在日の方の苦しみが綴られている自伝です。「日の丸君が代」強制問題に取りくむ会」として朝日新聞8月8日の「国旗国歌法成立10周年」記事を配布しました。「君が代」伴奏を踏み絵として苦しむ

時はちょうど信徒10数人による礼拝中だったが、フランス人神父が流暢な日本語で教会の沿革について説明してくれた。南ドイツアルビーツ社製というブロック様式の本格的パイプオルガンが印象的だった。神父、信徒の見送りを受けて同教会を辞した二行は待望の餃子(キョウザ)レストランへ。全員が餃子定食で舌鼓みを打ちいささか満腹したところで「大谷石資料館」へ。史料館と言ってもそこは巨大な洞窟。1986年までの70年間、火山灰が固まってきた凝灰岩大谷石を切り出した跡の2万平方メートルの地下洞窟。幾つもの空間に分かれ、坑内気温は摂氏8度前後。戦時中は秘密の軍事工場として利用、そして現在はコンサートや美術展、映画スタジオなどに活用されているという。それにしてもこの薄暗い広大な空間を昇り降りしたので、後期高齢者はいささかぐったり。この後、最終コースの「小山祈りの家」を訪問。同施設は1939年、聖ヨハネ修士会の修道院として36年間、その働きを続けた。しかし、志願者が絶えて1975年解散、北関東教区がその建物を譲り受けた。同教区は全国から募った1500万円の浄財で「小山祈りの家」として整備。現

小学校音楽科教員、清瀬聖母教会の岸田静枝さんを紹介した記事です。記事の裏に昨年11月の教区会決議の一部と韓国語・英語の訳を載せました。韓国語訳は柳チャプレンが快くお引き受け下さいました。

管区人権委員会の出店では同宗連の狭山事件ブックレットの配布、狭山事件再審請求の署名活動をしていました。私は署名呼びかけのお手伝いをしました。次々と司祭・信徒が訪ねられ、160冊のブックレットもあっという間に無くなりました。

管区「正義と平和委員会」が「九条」グッズ等の販売、沖縄教区が辺野古の海を守るためにアピールをしていました。カンタベリー大主教は丁寧に出店を観て下さり、さざ波のように喜びが広がっていききました。



150周年記念礼拝にアッシャーとして参加アレコレ

千村雅信

(編集子)

在、信徒の黙想、研修など霊的な場として広く活用されている。二行は礼拝堂でしばし祈りの時間が与えられ、充実した一日を無事終えたことを感謝しつつ帰路に就いた。毎度のことながらこの「バスの旅」を企画し、旅程中も万事細かくお世話していただいた西沢功宰兄に深甚の感謝を申し上げます。

2週間以上前から教会に届いていた情報によると、記念礼拝当日は出席者が多いため半数近くは座れないらしい。という困ったものでした。当日はアッシャーとして奉仕する事と、三から出席される方たちに何とか席を確保するという、両方の使命を帯びて会場に向かいました。11時に集合なので少し早目に着こうと歩いていると加藤望さんから携帯に電話着信。もう30席ぐらい紙を置いて席を確保したとの事。さすが早業。

11時からアッシャーの役割説明を受け、礼拝堂の中で受け持ち場所と陪餐時の誘導法を確

認して入口から外に出るとそこにはすでに多くの出席者が並んで開場を待っていました。その中には三の方達を多数発見し、ここに並んでいけば問題なく席を確保できると安心。礼拝開始の1時間以上前に空席は全て無くなり、その後は入り口近くのスペースに立つという事になってしまいました。アッシャーとしても何も出来ないという混雑ぶりです。

礼拝開始時間となりプロセスジョンが始まりました。総勢270名という大勢の司祭団であったため全員が祭壇に上り着席するまでに10分位掛かったのではないのでしょうか。

そして礼拝が始り何度も聖歌が歌われて感じたのですが、例年の教区フェスティバルの3倍ぐらいの勢いだと思っただけの気のせい?

いよいよアッシャーが動かなくなるとはならない陪餐になりました。まず子供たちがカンタベリー大主教から祝福を受け、その後全員が陪餐が始まります。司祭が3人で1組となり5か所に分けて行われました。出席者が迷わず短時間で倍餐を受けられるように誘導するのがアッシャーの一番大事な仕事です。面白いことがありました。仏教界からの来賓で出席されてい

教会委員会議事録抜粋2009年6月～9月

<6月>

- ・主教会教書について。カトリック司教教書「命のまなざし」を引用。現在の厳しい世の中での教会の状況についてのお話。
- ・洗礼盤、聖書台。大郷司祭に発注。洗礼盤の形については、後藤務兄と大郷司祭とで協議する。
- ・故生川又平兄の顧問弁護士より、遺産を榛名新生会と聖三一教会へ寄贈したいとの遺志が伝えられた。
- ・働きグループリーダー会を6月7日に実施。働きグループを礼拝・教育・行事・宣教・海外支援・メンテナンスに分類。活動は教会委員の担当委員が把握する。
- ・教育担当報告。教会の活性化のためのお話を聴く会を企画。第1回は八幡眞也兄の「パキスタン北部大地震における聖路加病院の医療活動」。
- ・会計報告。ホール塗装のための修繕清掃費支出。
- ・メンテナンス報告。雑草対策用のシートが後藤務兄から寄付された。女性用のトイレ改修は、生川又平兄の寄付により待望の改修が行われる。
- ・山手教会グループ報告。聖愛教会は創立120周年。聖マーガレット教会は、次期主教、常置委員選挙についての意見文書を出す。

<7月>

- ・日本聖公会宣教150周年関連記念の関連事項。宣教150周年を聖三一教会はどのように受け止めるのか。黙想会または講演会を企画する。
- ・植田主教は2011年3月に退職される。2010年秋に主教選挙が行われることになる。それに伴い主教選挙特別委員会が設置される。聖職・信徒を問わず6つの教会グループ協議会から6人を選出し、常置委員会のメンバーとともに構成される。
- ・故生川又平さんの聖三一教会への遺贈金が振り込まれた。
- ・バザーについて。地域や外の方たちとの交わりを大切にしたい。献品の仕分けは日曜日の午後に行う。
- ・日帰りバス旅行。9月8日に宇都宮聖ヨハネ教会で礼拝、カトリック松が峰教会を見学、小山祈りの家に立ち寄る。

- ・世界平和を祈る集い(世田谷宗教者懇話会主催)北沢八幡神社で9月5日に行われる、当教会の聖歌隊も参加する。
- ・「敬老の日のつどい」を9月13日に開催する。
- ・逝去者記念礼拝。9月26日に、最近10年間に亡くなられた方々を憶えて祈る。
- ・会計報告。オルガン修理のためのオルガン献金をお願いしたい。
- ・メンテナンス報告。トイレの改修工事と台所出口のひさし工事、その他コンセント修理、屋外照明灯の設置、配線工事を行う。電気代節約のため床暖房を使わない暖房のしかたを研究する。
- ・インターネット分科会報告。イベントなどを携帯メール電子メールで知らせることを検討する。

<9月>

- ・来年度教会委員選挙。準備に今年度任期終了の教会委員があたる。まず45名の被選挙人の選出。
- ・信徒代議員選挙法について。2010年の受聖餐者総会成立に向け、寺内安彦氏を中心に長谷川司祭が人選し、検討会を設立する。
- ・教会施設使用について協議。
- ・日本聖公会宣教150周年記念として、聖三一教会は11月29日の黙想会を計画している。
- ・主日説教。山手グループ教会を回る。聖三一教会は、10月11日ストーゼンバック聖職候補生(聖マーガレット教会)の奨励、10月18日倉沢聖職候補生の奨励が行われる。
- ・「言いつ放し懇談会」9月6日。宣教委員会主催、「地域集会の開催について」の様々な意見や提案を生かす方向で話し合われた。まず地域集会(家庭集会)の開催場所を募ることにした。
- ・メンテナンス報告。聖堂ステンドグラス裏漏電修理ほか各所の電気関係の修理を行う。
- ・会計報告。収入は低調である。
- ・インターネット分科会報告。インターネット配信をテスト中、広く信徒への呼びかけもしたい。

事務所のコピー機、印刷機、折機使用に関してのお願い。

現在事務所に設置されている機器は最新式で多機能になっているため設定項目が多く、設定を誤ると誤作動、故障の原因となります。又、操作パネルで設定を変更された時は次に使用される方のために変更前の設定に戻しておいてください。特に印刷機と折り機は故障しやすいので、使用に慣れていない方がご利用の場合は事務スタッフにご相談ください。

以前からお願ひしていますが、個人の用件で利用される方はコピー機の横に利用献金箱が置かれていますので、その箱にお金を入れてください。コピー料金は箱に記入してあります。

女性用お手洗いを改修しました。

長い間改修をしてこなかったため使い難くなっていたお手洗いを全面改修しました。天井の明りは男性用お手洗いとなるべく同じもの！に取り換え、仕切りのペンキも塗り替えたため暗い感じだった室内がずっと明るくなりました。



工事中のお手洗い

電気工事をします。

お手洗い同様長いこと手を加えていなかったため、電機関連の様々な部分でも改修が必要になってしまいました。工事箇所は、
 ◎礼拝堂のステンドグラス裏の漏電改修。
 ◎牧師執務室の外壁についている電源盤の室内への移設。
 ◎台所横出入口の軒下と庭に面した壁に照明器具取り付け。
 ◎門の上のアーチに常夜灯の取り付け。
 以上の工事はバザーまでに済ませる予定で10月14日から開始します。

その他の修理

和室前の通路に貼られているPタイルが経年劣化のため非常にもろくなり、かなりの部分ではがれてしまいました。年内には張り替る予定です。



働きグループ掲示板

各働きグループのお知らせを毎号この欄に掲載します。

◎オルターギルド
 オルターギルドについての勉強会を始まりました。礼拝後の短い時間です。メンバーでない方の参加もどうぞ。

◎三映画会
 今回は11月15日(日)午後2時からです。作品は東支配人が現在熟慮中です。リクエストも沢山いただきました。たが何故か古い作品に集中です。

◎手作りケーキの会
 腕に自信のある方も、ない方もケーキを作ることが好きな人は一緒にやりませんか！お待ちしています。

◎庭プロジェクト
 教会に沢山ある大きな庭木の剪定を行いました。2年間はもつ予定です。バザーまでには小さな植木にも手を入れる予定です。

◎インターネット分科会
 9月から何回かテスト配信してきた「教会便りメール」は、第二号としてバザーのお知らせを配信しました。教会案内パンフレット詳細版を作成したのでバザーの時にテスト配布します。